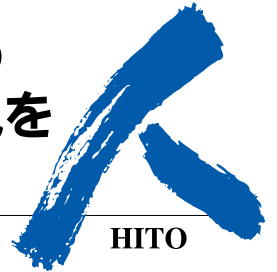




中世・ルネサンス時代の 温かくて、やさしい音色を 現代に伝える



HITO

つのだたかしさん (リュート奏者)

「子どものころからとにかく音楽が好きでした。高校1年生の時、友人に感化されてギターを弾くようになりましたが、このころから『プロになりたい』と思っていました。と気取らずに話してくれるつのださんは、国内外で数多くのコンサートや放送・録音などで演奏活動を続けるほか、CDも多数発表している、リュートの演奏家です。つのださんは22歳の時にクラシックギタリストを目指してドイツに留学しました。そこで出会ったのがシェイクスピアの時代の音楽で、その中に使われていた楽器の一つがリュートだったのだそうです。その音色に惹かれたつのださんは、ケルン音楽大学リュート科を卒業し、プロの道に進みました。つのださんにリュートの魅力を伺うと、「現代の楽器は、扱いやすさや機能性を求めるあまり、楽器が本来

「リュートの起源は、8世紀ごろのペルシャと言われています。15～17世紀にはヨーロッパで王侯貴族や上流階級に愛され、その美しい音色はシェイクスピアの戯曲にも登場するんです。私は、『ほっとする』この音色に惹かれたんです。」と、つのださん。

「ソロとアンサンブルなどを合わせて年間60回ほどコンサートをしています。演奏することが楽しくて、今とても充実しています。」とおっしゃるつのださん。今年ドイツのレーベルから、タブラトゥーラのCDが世界に向けて発売されるそうです。これからも、つのださんの奏するやさしいリュートの音色が、皆さんを魅了してくれることでしょう。

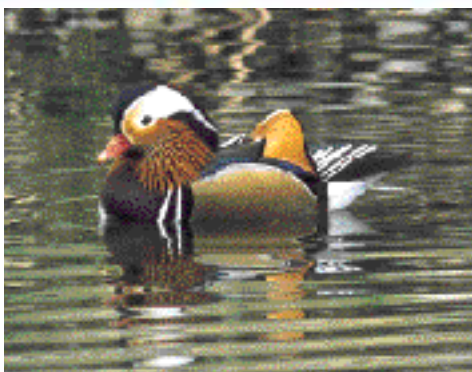


「狭山でもコンサートを。」とのお願いにも『機会があればやってみたくですね。』と笑顔でこたえてくださいました。

植物・生き物 / しょくぶつ・いきもの

さやまの生態系 オシドリ (ガンカモ目ガンカモ科)

昨年9月ごろから広瀬橋付近の入間川の中州に、オシドリのエクリップス（非繁殖羽）と思われるカモがいるのが話題になっていました。秋が深まるにつれて徐々にあの美しい色彩に変化し、現在ではカラフルな装いでほかのカモの群れの中に見えるのを見ることができません。全長45cmのこの鳥は、本来林に囲まれた湖や深流などに生息し、水底に沈んでいるドンクリなどの木の実を食べていますが、ここではどんなものを食べているのでしょうか。静かに見守っていきたいものです。



撮影：県生態系保護協会狭山支部
矢内昭夫さん(水野)

Vol 57